

日本語教育でつなぐ国際共同研究

—国際共同研究のイニシアティブをとれる研究者をめざして—

国際教育総合センター 朴秀娟(パク・スヨン)

1. 自己紹介

● 名前

朴 秀娟(パク スヨン)

2005年4月に国費留学生(大阪大学大学院文学研究科)として渡日

2011年3月に博士号取得

2013年10月より神戸大学国際教育総合センターに着任

2014年4月より国際文化学研究所兼任

日本語教育

日本語教育・言語研究に関する
専門教育及び研究指導

2

1. 自己紹介

● 専門分野

日本語学 日本語教育学

● 研究分野

現代日本語・近代日本語

「あくまでも個人の意見です」という言い方は明治期にはなかった!?

日本語学習者の中間言語

学習者がつい言ってしまう「たくさん勉強しました」はなぜ不自然に聞こえてしまうのか。

3

2. 共同研究のテーマ

日本語教育

現代日本語・近代日本語

日本語学習者の中間言語

実際の日本語
≠教科書の日本語

学習する
≠使える(産出)

中国語 を母語とする学習者

副詞

4

2. 共同研究のテーマ

中国語 を母語する学習者

副詞

韓国語 を母語とする学習者

英語 を母語をする学習者

産出につながる日本語教育を目指した
日本語学習者の中間言語に関する文法研究

5

3. 派遣先及び派遣期間

韓国	アメリカ
<p>鄭 相哲 (チョン サン Chol) 教授</p> <p>韓国外語大学 通訳・翻訳大学(*学部相当)</p> <p>現・日本語通訳・翻訳学科長 現・韓国言語類型論学会長</p> <p>専門:日本語学(文法論)</p> <p>2019. 2. 27 ~ 2019. 5. 27</p>	<p>南 雅彦 (みなみ まさひこ) 教授</p> <p>San Francisco State University College of Liberal and Creative Arts</p> <p>全米日本語教育学会理事 北カリフォルニア日本語教師会長 などを歴任</p> <p>専門:言語発達・発達心理学</p> <p>2019. 5. 27 ~ 2019. 8. 26</p>

6

4. 研究内容

4.1 韓国：韓国外語大学

研究環境

7

4. 研究内容

研究活動

学習者の中間言語において誤用が多く観察される項目の一つ

具体的なテーマの選定

連体修飾節のテンス・アスペクト

(1) 小説を{読む／読んでいる／読んだ／読んでいた}人
 소설을 {읽을／읽고 있음／읽는／읽고 있음／읽은／읽던／읽고 있던} 사람

(2) メキシコへ行ったとき、帽子を買った。
 ⇒ 帽子を買ったのは、メキシコへ行った後
 ホノルルマラソンで走ったとき、有名人に遭遇した。
 ⇒ 有名人に遭遇したのは、走り終わった後?

8

4. 研究内容

データの収集・分析

(1) 連体修飾節のテンス・アスペクトに関する日韓対照研究

小説を読む／読んでいる／読んだ／読んでいた人
 소설을 읽을／읽고 있을／읽는／읽고 있는／읽은／읽던／
 읽고 있던 사람

(2) 連体修飾節のテンスの指導法に関する研究

メキシコへ行ったとき、帽子を買った。
 호놀룰루마라ソンで走ったとき、有名人に遭遇した。

9

4. 研究内容

成果発表

(1) 連体修飾節のテンス・アスペクトに関する日韓対照研究

鄭相哲・朴秀娟(2019)「한일관형절의 시상법에 관한 연구(訳: 韓日冠形節の時相法に関する研究)」『国際ワークショップ「北東ユーラシア諸言語の記述と対照3」』新潟大学

(2) 連体修飾節のテンスの指導法に関する研究


朴秀娟・鄭相哲(2019)「相对テンスの指導法について一時間を表す従属節を中心に—」『韓国日本語学会第40回国際学術発表大会』韓国日本語学会

10

4. 研究内容

その他の活動

- 韓国語を母語とする日本語学習者向けの日本部文法書の執筆及び編集作業(2020年度春刊行予定)
- 研究会(「水曜日本語研究会」)への参加及び研究発表
- 「韓国言語類型論学会勉強会」での文献購読



11

4. 研究内容

現在の研究交流及び今後の予定


- 発表した内容の論文化
 - 韓国学会誌、または、日本と韓国以外の国において刊行されている国際学術誌(検討中)
- テンス・アスペクトの日韓対照研究に関するプロジェクトおよび研究会の立ち上げ
 - メンバー: 発表者ほか、鄭相哲教授(韓国外語大学)、河在必助教授(韓国外語大学)、全紫蓮助教授(慶尚大学)の4名
 - 内容: 研究会の開催(年2回)、研究成果の発表及び、出版(5年計画)

12

4. 研究内容

その他の活動

- 英語を母語とする日本語学習者の日本語運用能力の観察
 - カリフォルニア大学バークレー校のサマーコース(中上級レベル)
 - Japan Society of Northern California主催の日本語教室
(入門レベル・上級レベル)



17

4. 研究内容

現在の研究交流及び今後の予定

- データ分析
- 成果発表(予定)

【口頭発表】

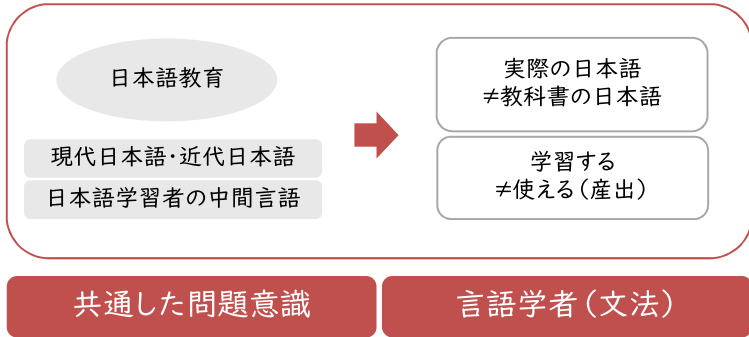
「2020年日本語の誤用及び第二言語習得研究国際シンポジウム」
日本語誤用と日本語教育学会

【投稿】

『日語偏誤と日語教学研究』日本語誤用と日本語教育学会
(2020年度刊行)

18

5. 今後の展望



日本語教育

現代日本語・近代日本語
日本語学習者の中間言語

→

実際の日本語
≠教科書の日本語

学習する
≠使える(産出)

共通した問題意識

言語学者(文法)

19

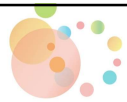
5. 今後の展望

共通した問題意識

言語学者(文法)

日本語教育でつなぐ国際共同研究

20



6. 研究成果のまとめ

● 発表済み

- a. 鄭相哲・朴秀娟 (2019) 「한일관형질의 시상법에 관한 연구 (訳:韓日冠形節の時相法に関する研究)」『国際ワークショップ「北東ユーラシア諸言語の記述と対照3」』新潟大学
- b. 朴秀娟・鄭相哲 (2019) 「相對テンスの指導法について一時間を表す従属節を中心に」『韓国日本語学会第40回国際学術発表大会』韓国日本語学会
- c. 朴秀娟 (2019) 「中級日本語学習者によるストーリーテリングに見られる副詞の特徴」『日本語／日本語教育研究会 第11回大会』日本語／日本語教育研究会

21



6. 研究成果のまとめ

● 発表予定

- 1) 鄭相哲教授との共同研究
 - ・『日本語学研究』韓国日本語学会、もしくは、日本、韓国以外の国において刊行されている国際学術誌
- 2) 南雅彦教授との共同研究
 - ・「2020年日本語の誤用及び第二言語習得研究国際シンポジウム」日本語誤用と日本語教育学会
 - ・『日語偏誤与日語教学研究』日本語誤用と日本語教育学会
(2020年度刊行予定)

22